

2009年4月3日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

## ◎BEST DEALS OF 2008 を選出: 逆境下で希望をつなぐファイナンス

キャピタルアイ・ニュースは3日、キャピタル・アイ Awards “BEST DEALS OF 2008” と “BEST ISSUERS OF 2008” を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2008年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

世界的な金融危機の影響で債券・株式市場ともに大荒れの年度となり、一時は“機能停止”と言われるまでに追い込まれた市場に、ファイナンスの成功によって希望をつないだ案件への評価が高かった。

普通社債部門のトヨタ自動車とパナソニック、既公開株式部門の三菱UFJフィナンシャル・グループと野村ホールディングスは、運営上の工夫や周到な準備によって、逆境下における大型のファイナンスを成功させた。不動産投資信託証券部門のフロンティア不動産投資法人や普通社債部門の豊田自動織機は、ほかの案件が中止に追い込まれるなかで資金調達を実現させた。

以下が授賞リスト(<>内は主幹事、日付は条件決定日/決議日)。

### 普通社債部門

#### BEST DEALS OF 2008

第7回トヨタ自動車債	2月20日	5年	1200億円
第8回トヨタ自動車債	2月20日	10年	800億円

<野村/日興シティグループ/トヨタフィナンシャルサービス>

不安定な環境下で適正なスプレッドを示し、発行登録枠いっぱいの総額 2000 億円のディールを成功させた。パナソニック債をはじめ、後続案件のプライシングにおけるベンチマークの役割を果たし、社債市場復活の起爆剤となった。

#### BEST DEALS OF 2008

第6回パナソニック債	3月4日	3年	1000億円
第7回パナソニック債	3月4日	5年	2000億円
第8回パナソニック債	3月4日	10年	1000億円

<野村/ゴールドマン・サックス/大和SMBC/日興シティグループ/みずほ>

不透明な市場環境にも関わらず、ホールセール債で過去最高額の起債を実現させ、市場に安心感を与えた。三洋電機買収のための調達であり、約 7 年ぶりの希少性から人気化した。3 年限で延べ 1000 件近い投資家が参加。入念な IR 活動も評価された。

#### BEST DEALS OF 2008 3 位

第 5 回エーザイ債 〈野村／日興シティグループ／新光〉	5 月 29 日	3 年	400 億円
第 6 回エーザイ債 〈野村／三菱UFJ／新光〉	5 月 29 日	5 年	500 億円
第 7 回エーザイ債 〈野村／日興シティグループ〉	5 月 29 日	7 年	300 億円

米製薬会社の買収資金のリファイナンス案件と資金使途が明らかだった。製薬業と約 13 年ぶりという希少性から、総額 1200 億円が円滑に消化された。決算発表の 2 週間後という起債時期も評価されている。

#### 特別賞

第 2 回TDK債	1 月 23 日	3 年	230 億円
第 3 回TDK債	1 月 23 日	5 年	480 億円
第 4 回TDK債 〈野村／大和SMBC／日興シティグループ／ゴールドマン・サックス〉	1 月 23 日	10 年	130 億円

厳しい起債環境だった年明け後、最初に成功を収めた大型ディール。投資家との対話を重視した起債運営で総額 840 億円にまで積み上げ、その後の事業債の先導的な案件となった。

#### 特別賞

第 17 回豊田自動織機債 〈野村／三菱UFJ〉	9 月 18 日	10 年	260 億円
-----------------------------	----------	------	--------

2008 年 9 月 15 日のリーマン・ブラザーズ破綻によって、クレジット市場が一気に暗転。準備されていた複数の国内 SB、サムライ債が相次いで発行中止に追い込まれるなか、唯一起債を成功させ、ポジティブサプライズを市場に与えた。

#### BEST ISSUER OF 2008

##### 三菱東京UFJ銀行

定例的に登場するネームの代表格で、世界的に金融不安となるなかで工夫を凝らした。個人向けでは国内発行体として初めて 8NC3 劣後債を発行し、2 月のディールは SB 市場過去最大の 4500 億円。年度を通じた発行額は 9720 億円と発行体別でトップとなった。



## BEST ISSUER OF 2008

ウエストパック・バンキング

2008年9月のリーマンショック以降、供給が途絶えたサムライ債市場に政府保証付きのスキームを導入して2000億円超の大型起債を成功させ、後続案件の“道標”となった。およそ5ヵ月ぶりに発行を再開させた功績は大きい。リーマンショック以前から豪州4大銀行の一角として同市場を支えている。

## 証券化部門

### BEST DEAL OF 2008

第21回住宅金融支援機構債

1月26日

35年

1170億円

〈三菱UFJ／大和SMBC／モルガン・スタンレー〉

2008年12月の起債中止直後の案件。1ヵ月におよぶ需要調査と、これに基づく発行額の調整という異例と言える念入りな準備によって1170億円の起債を成功させた。中止によって一旦は崩れた発行スケジュールを正常な軌道に戻し、証券化案件の需給改善に貢献した。

## 外債部門

### BEST DEAL OF 2008

該当なし

### BEST ISSUER OF 2008

該当なし

## 新規公開株式 公募・売出部門

### BEST DEAL OF 2008

グリー 11月13日 公募・売出：363万株 119億7900万円  
〈野村〉

成長性、ビジネスモデル、規模、知名度と多くの面で投資家を惹きつけた。新興市場株に対する信頼感が揺らぐなか、全員参加型の需要を集め、新規公開株に対する流れを変えた。初値は公開価格を約50%上回り、上場後も公開価格を下回ることなく推移。東証マザーズで上場時価総額トップ。

### 特別賞

データホライゾン 8月21日 公募・売出：32万株 5億2800万円  
〈野村〉

上場時価総額30億円程度の小型株ながら、後発医薬品の通知サービスという時流に乗った事業内容と好業績で独自の存在感を放ち、中長期的な成長が期待できる銘柄として高い評価を得た。中小型株全般が苦戦するなかで、現在の株価が公開価格を上回る希少な存在。

### BEST ISSUER OF 2008

該当なし

## 既公開株式 公募・売出部門

### BEST DEAL OF 2008

三菱UFJフィナンシャル・グループ  
〈野村／三菱UFJ〉 11月18日 公募・売出：9億3480万株 3898億1160万円

金融危機のさなか、当年度で最大となる4000億円規模の資本調達を公募で行った。発行登録を利用しあらかじめ希薄化を織り込ませる形を採用。幅広い需要を集めて、後続の大型金融機関案件への道を拓いた。

### BEST DEAL OF 2008 2位

野村ホールディングス 2月23日 公募：6億6157万2900株 2758億7589万9300円  
〈野村〉

厳しい市場環境下、発行済み株式総数対比で38%超となる大型増資だったが、事前に発行登録を行うことで希薄化を浸透させ、また募残をオーバーアロットメントに使える仕組みを採用するなど、あらゆる手法を駆使した。

### BEST ISSUER OF 2008

該当なし

## 不動産投資信託証券部門

### BEST DEAL OF 2008

フロンティア不動産投資法人 7月1日 公募：3万5000口 218億8340万円  
〈日興シティグループ／大和SMBC／UBS〉

信用収縮の動きが加速し、先行・並行した他案件が中止を余儀なくされたなかで、スポンサーが有力不動産会社であることや評価の高い新規物件の組み入れ、将来のパイプラインが充実していることなど、投資家が理解しやすいエクイティ・ストーリーで旺盛な需要を喚起することに成功した。

### BEST ISSUER OF 2008

該当なし

## 転換社債型新株予約権付社債部門

### BEST DEALS OF 2008

アサヒビール ユーロ円 CB 5月13日 15年 350億円  
〈野村インター／大和SMBCヨーロッパ〉  
アサヒビール ユーロ円 CB 5月13日 20年 350億円  
〈野村インター〉

厳しい起債環境のなか、700億円もの金額が調達可能であることを示した。複数条項の付与でCBの活用方法に新境地を開いた。15年債では5年プットを付与することで、投資家のクレジットリスクの許容度と低い株価のボラティリティに配慮。リキャップのスキームを採用したことも好感されている。

### BEST DEALS OF 2008 2位

カシオ計算機 ユーロ円 CB 6月3日 7年 500億円  
〈UBS／JPモルガン〉

仮条件の上限で決定したアップ率35%は2008年度最高の転換プレミアム。プットオプションによって投資家のダウンサイド・プロテクションを強化する一方、時価を上回る高い転換価格を設定することで既存株主に配慮し、旺盛な需要の喚起に成功した。

### BEST ISSUER OF 2008

該当なし

#### ■キャピタル・アイ Awards とは:

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、サムライ債、外債(日本企業による海外発行債)、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券(J-REIT)、転換社債型新株予約権付社債(CB)の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆株式会社キャピタル・アイについて

代表者:代表取締役 高田 一子

所在地:東京都千代田区九段北 1-12-3 井門九段北ビル 4 階

設立:2006 年 7 月

資本金:8 千万円(2007 年 11 月 30 日現在)

主な事業の内容:金融市場に関するオンライン情報サービス

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場やCDS市場、CP市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ:<http://news.c-eye.ne.jp/info/>

**【本件に関するお問い合わせ先】**

**株式会社キャピタル・アイ**

広報担当:桜井由佳 03-6826-4710